

動物園におけるフードロスの実態とその解消策の検討

川崎立太

(横浜市立野毛山動物園)

動物園または野外における調査研究の進歩とともに各種飼育動物のガイドライン等が整備され、多くの分野で飼育管理の適正化が進められている。栄養学の知見に基づき給餌内容も見直され、より野生の採食行動に近づけるよう推奨されている。野毛山動物園でのアビシニアコロブスの飼育管理においても、主食を樹葉にするべく給餌内容を変更しているが、給与樹葉の1日の採食率は主観で概ね10%に満たない。そこで、客観的に実態を明らかにすべく、以下の調査を実施した。樹葉の残餌を計測する手間を考慮し、グリーンリーフレタスを対象とし、生重量から翌日の残餌量を差し引き、採食率を計算した。1日の平均採食率は26.1% (n = 40, SD = 15.1) で、多くの残餌が廃棄されていた。給餌された食品をサルに採食されることなく廃棄するという無駄(フードロス)を避けるために、最新の知見から給餌内容を検討した。